▶普及啓発·人材育成

レジリエンスに取り組むコミュニティを形成する

046

山間部の集落での 玄関先の旗による災害時安否確認

取組主体		
生東区自主防災会		
従業員数	想定災害	実施地域
133戸	全般	長野県

• 大規模な土砂災害や地震等の際に、山間部の住民が避難状況や傷病者の有無を知らせるための「旗」を作成、配付。安否を迅速に確認することで、助けが必要な人をいち早く見つけ、必要な支援を届けることを目的としている。

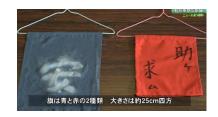
取組の特徴(はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点)

山間部で住民の安否確認を行うための「旗」の活用

- 長野県松川町生東区の自主防災会は、尾根筋や沢筋に民家が立ち並び、 道も狭いために車での自由な往来も難しいという同区の地理的な特性を踏 まえ、有事の際の安否確認について独自の方法を考案した。
- 同区は住民の高齢化が進み、独居者も多いため、有事の際は各戸の安否 確認が必要だが、同じ自治会内でも各民家は距離的に遠いため、時間が かかってしまうという課題があった。
- そこで、有事の際の安否確認の方法として、住民が避難状況や傷病者の有無を周囲に知らせるための旗を作り、区内の約 160 世帯に配付した。旗の材料には 100 円のハンガーと不要になった布生地を使い、取り組みやすさとわかりやすさを重視した。
- 旗は「赤」と「青」の 2 色がある。無事を知らせるのは「青」で、家にいて安全である場合や、問題なく避難所まで向かえそうな場合に掲げる。助けを求めるのは「赤」で、傷病者の救援が必要な場合や避難所に向かえそうにない場合に掲げる。家族の中に外出等で安否確認できない人がいる場合は「青」を三角形に折って掲げる。「青」も「赤」も掲げられていない場合は、異変があったと判断をする。
- 同取組を行うことで、尾根沿いの道路から山の中腹にある家の状況も把握することができるようになるため、迅速かつ的確な安否確認を行い、必要な人にできるだけ早く必要な支援を届けることにつながると考えている。
- 通常、自主防災規定においては、自治会単位での安否確認を行うことになっているが、同じ自治会内でも各戸の距離が遠い同区においては、迅速な安否確認を可能にするため、より細かい「班」に分けた。普段からお互いに声をかけ合う関係づくりを推進し、平時からお互いの変化に気付くことができるようになると良いと考えている。



尾根筋や沢筋に民家が並ぶ生東区



「青」「赤」の旗



玄関先に旗を掲げた様子

2 現状の課題・今後の展開等

• もしものときのために、速やかに運用できるよう、定期的に訓練を重ねていく考えである。

担当者の声

どんな小さなことでもまずやってみることが大切だと思っています。

問合せ先

動面



TEL: 0265-36-7021 FAX: 0265-36-5091 E-Mail: kikikanri@town.matsukawa.lg.jp

松川町役場総務課危機管理係